



1・2年次生が科学の甲子園山口県大会に参加しました。

普通科
探究科

1月2日(土)に開催された第14回科学の甲子園山口県大会に、科学部の部員を中心とした3チームが出場しました。出場した生徒は、普通科の1年次生が10人、2年次生が4人、探究科の1年次生が2人、2年次生が2人です。山口県内の高等学校10校から22チームが参加しました。



第14回科学の甲子園山口県大会に参加した生徒

山口県大会は、筆記競技、総合競技および実験競技が予定されていましたが、当日は、台風の影響により県内のJRが運休となったため、午後からの開始となり、総合競技と実験競技のみが山口市の山口県セミナーパークで実施されました。総合競技は、60分間で装置を作製し、作った装置を使って得点を競う競技です。このたびはボールを発射する装置を作製し、装置から発射したボールを床に置いた板に当て、板に跳ね返ったボールをプラスチック段ボールでつくったピンに当てて倒す競技でした。競技内容の一部は大会前に公開されており、参加したチームは、ボールを発射する装置の仕組みを考えて大会に臨みました。また、実験競技では、陸上で成長する植物と水中で生息する植物の葉の特徴を観察し、比較検討する実験が出題されました。それぞれのチームの6人の生徒は、3人ずつに分かれて総合競技と実験競技に挑戦しました。

当日実施できなかった筆記競技は、後日学校で実施し、この結果に総合競技と実験競技の結果を加えて、順位が決定されました。残念ながら、全国大会出場は叶いませんでしたが、このたびの経験を今後の活動に生かしてください。

探究科3年次の化学2班が、「科学の芽」賞で努力賞を受賞！

探究科

筑波大学が主催する、第19回朝永振一郎記念「科学の芽」賞に、表に示した探究科3年次の研究班が課題研究の成果を出品し、化学2班が高校生部門で努力賞(6位相当)を受賞しました。「科学の芽」賞は、筑波大学の前身である東京教育大学の学長を務められた物理学者朝永振一郎先生の功績をたたえるため、創設されたコンテストです。「科学の芽」は、朝永先生が子どもたちに向けて残された「ふしぎだと思ふこと、これが科学の芽です」から名付けられました。昭和40年に日本で2人目となるノーベル賞(物理学賞)を受賞された朝永先生の功績を、後続の若い世代に伝えていくとともに、小・中・高校生を対象に自然や科学への関心と芽を育てることを目的として毎年開催されています。

第19回朝永振一郎記念「科学の芽」賞に出品した研究班と研究テーマ等

研究班	研究テーマ	結果
公民	紙の分解におけるごみの削減と資源循環	
数学	コサイン類似度を用いた楽曲同士の関連性の分析手法について	
物理1	ペットボトルフリップと水の動きに関する研究	
物理2	コップと免震装置の研究	
化学1	アイカゲル〜シリカゲルの吸着熱を利用したアイマスク〜	
化学2	プラスチックも種類で分別する時代へ	努力賞
生物1	ユーグレナのパラミロン含有量と温度との関係性	
生物2	身近な細菌を用いた生ごみの効率的な分解に関する研究	
保健体育	三重跳びをとぶには	
家庭	二酸化炭素を吸収する布を作る	



第19回朝永振一郎記念「科学の芽」賞に出品した探究科の3年次生

今年度の「科学の芽」賞には、小・中・高等学校から、あわせて2,377作品が出品されました。入賞する作品の数が、出品数の1割未満と、他のコンテストに比べて少ないため、近年本校からの入賞はありませんでした。なお、化学2班の入賞に加え、研究活動を推進する学校に送られる学校奨励賞を、本校が受賞しました。学校奨励賞は、みなさんに加え先輩の方々が積み上げてこられた成果でもあります。在校生のみなさんは、しっかり引き継いでいきましょう。

探究科の2年次生が、立命館アジア太平洋大学を訪問しました。

探究科

11月6日(水)に探究科の2年次生が立命館アジア太平洋大学(以下、「APU」という。)を訪問しました。立命館アジア太平洋大学は大分県別府市にある大学で、アジア太平洋学部、国際経営学部およびサステナビリティ観光学部が設置されています。キャンパスには約5,000の学生が学んでおり、その半数がおよそ100ヶ国から来日した留学生(APUでは、「国際学生」と呼んでいます。)です。日本語と英語それぞれの授業が行われており、学生は自身の語学力にあわせて受講する言語を選択するとともに、キャンパスでは、普段から様々な言語が飛び交っています。



お世話になったGASSのみなさんとツインタワーの前で記念撮影

バスで大分県に向かった探究科の2年次生は、APUに到着したのちGASS(Global Admissions Student Staff)のみなさんによるキャンパスツアーに参加しました。GASSはAPUのオープンキャンパスなどで活躍されている学生のみなさんで、出身国は様々です。キャンパスツアーでは、大分県産のスギ材を使用して建設されたグリーンコモンズで、APUの学生が授業を受けたりレポート作成に取り組んだりしている姿を見学しました。また、キャンパス内ある学生寮(APハウス)の見学では、希望すれば1年生が全員入寮できることや、国際学生とルームメイトになれることなどが紹介されました。キャンパスツアーの後には、カフェテリアで昼食を取りました。国際学生が多く在学していることもあり、様々な国の食事が用意されているとともに、メニューには宗教などに配慮したハラル表示がありました。



GASSのみなさんとキャンパスを見学!

昼食の後には、いよいよ活動です。探究科の2年次生は、課題研究の研究班に分かれて事前に用意したテーマに沿って国際学生に英語でフリーインタビューを行いました。フリーインタビューでは「留学先として日本を選んだ理由」を尋ねるとともに「日本の祭りに行ったとき困ったことはないか」や「母国ではどのような昆虫を見かけることがあるか」など、課題研究に関わるテーマでインタビューを実施しました。フリーインタビューののちは、それぞれの研究班に国際学生が加わり、英語でインタビューの成果をポスターにまとめました。最後に作成したポスターを使って、活動の成果を英語で披露しました。



カフェテリアで世界の料理に挑戦する

参加した生徒が記述した振り返りシートには、「はじめは英語で会話することが不安だったが、普段使っている単語だけでも会話できることがわかった」や「インタビューにより、



国際学生に英語でフリーインタビューに挑戦

それぞれの国に違いがあることがわかり、興味深かった」などがありました。参加した探究科の2年次生にとっては、12月のシンガポール・マレーシア研修に備えるよい機会となりました。



英語でフリーインタビューの成果を発表



国際学生とポスターを作製

普通科

は普通科を、

探究科

は探究科を対象としたプログラムです。